メリケン波止場　波止場町

●「波止場町（はとばちょう）」の由来

メリケン波止場

中突堤の東隣、鯉川の河口に明治政府は 1868（明治元）年波止場を作り第三波止場とした（後に第二波止場となる）。いつの頃からかこの波止場をメリケン波止場と呼ぶようになったが、これは、この波止場ができる前の慶応 3（1867）年 11 月に、波止場のすぐ北側の区画にアメリカ領事館が開設されたことがその理由だと考えられる。当時、「アメリカ」のことを英語の発音から「メリケン」と聞き取り、アメリカを指す言葉として用いられたのである。そして、この波止場も、アメリカ領事館の前にある波止場ということで「メリケン波止場」と呼ぶようになり、正式名称である第二波止場（もとは第三波止場）の名が消えてしまった。ただ、第二次大戦中は、敵国の名称をさけたのか「万国波止場」と改称されたが、戦後、もとの「メリケン波止場」へと復帰している。

そのメリケン波止場大部分が埋め立てられ、1987（昭和 62）年にメリケンパークがオープンし、神戸海洋博物館が開館した。今でも、メリケンパークの東側の岸壁をメリケン波止場と呼びかつての名残をとどめている。

メリケン波止場の北側にあるメリケン地蔵は、はしけから転落して亡くなった子供や、港湾事故の犠牲者を弔うために 1975（昭和 50）年頃に作られ、このあたりから引き上げられた一石五輪塔とともに祀られている。

メリケン地蔵

阪神・淡路大震災で、メリケン波止場はその岸壁が崩れ落ちたり、メリケンパークが液状化現象で泥まみれになるなど大きな被害がでた。この震災の傷跡を後世

出典：「神戸歴史トリップ」道谷 卓 著

メリケン波止場　波止場町

にそのまま残そうと、1997（平成 9）年 7 月、「神戸港震災メモリアルパーク」が開設された。ここには被災して半分海中へ崩れ落ちた岸壁を 60 ㍍、当時のままで保存し、地震の激しさと被害の生々しさを伝えようとしている。

なお、波止場町はメリケン波止場があることから名付けられた。

神戸港震災メモリアルパーク

出典：「神戸歴史トリップ」道谷 卓 著